第七巻 第一號

発行所
方城村公民館
方城村図書館
編集発行人
荒木良和
印刷所
冷牟田印刷合資会社
八幡市折尾町国道筋

皆様
明けまして
御目出度う
ございます

年頭の御挨拶

村長 松井肝太

栄光に輝く昭和二十九年の新玉の年を迎えまして、愛する方城村の弥栄と村民皆様の明るく一家健かに希望の迎春を心からお祝ひ申上げます。

昭和二十八年中も皆様の協力のお陰をもちまして村政隆昌の年でありました年を先ずお礼申上げます

今や方城村は人口一七〇〇〇人、本年度予算も五六一三万円、名実共に全国的雄村として、堅実な歩みをつゞけつゝあります。最も第一に三菱方城鉱業所をはじめ村内六ッの中小坑がこの炭界不況にもかゝわらず、健全な経営をつゞけられ発展されているお陰であります。

又農村も本年は異常な水害や虫害があっにもかゝわらず田川郡第一位に政府賞上米の完遂をとげ流石伝統を誇る優良村としての実績をあげていたゞきました。

想うに方城村は炭と米とこれに集う人を相手の商業との村であります。資源あっての炭坑、炭坑あっての今日の村勢であります。何年も共存共栄美しい人情に生きる村であります。この精神こそ方城村風であり、外には天下の優良村となり、入りては平和な郷土愛となって数々の実績があげられております。

私の信念は信頼の村政にあります公正なる議会の決議と明朗なる執行権の行使により産業も教育も社会の福祉も増進されるのであります。執行者、議会、村民一体の融合が今日の方城村の姿であり、数々の名誉を獲ち得た所謂であります。

昭和二十九年も又一段と飛躍すべく覚悟をあらたにしておりますれば、一層方城村風の作与に村民皆様の絶大なる御協力をお願ひいたしまして年頭の御挨拶といたします。

村民の皆様

田川郡町村議長会長
方城村議会議長 倉石文夫

新年を迎え
御芽出度うございます。

新春を迎え皆様の御健康と御幸福を御祈り申します。

年始る毎に皆様と一緒に新年の計画と躍進の希望に燃え良き我家を創り良き村を造りましょう。

省みますと二十八年は水害に見舞はれ皆様方にも多大な被害を受けられ御言葉の申しようもありません。単なる天災と諦めるには余りにも残念に過ぎます。

尚且つ将来に具え天災を人為を以って治めるべき政治を取りたいと村長始め議員各位と着想を練って居ります。皆様方の御意見を拝聴させて頂き万全の処置を講じたいと念じています。

昨今の新聞紙上に依りますと、本年も九州地方は干害の予報が出て居りますので、夏の準備は年始めから充分に手段を尽したいと思って居ります。

農業土木の振興は地道で一見牛歩の感じがありますが、人間の生命を左右する食糧の生産でありますれば村政第一条に心得て居ります山を治めて家を造り川を治めて米を造り以って一家の幸福と繁栄を守りましょう。幸い当村からは先進地アメリカの合理的農法習得の為栄えある洋行された若きホープ芦馬虎雄君を選出し半歳に余る辛苦の後に優秀な技術を体得されて最近帰郷致しました。今後の当村農業の進路に希望の持てる数々のものがあると期待して止みません

又本年度の経済事情も波多きものが予見されます。

既に聞く処に依りますと、三菱方城炭坑も赤字経営とかで法人税収入を始め出炭量減に依る鉱産税其の他、合せて約六百万円余の村政入減と聞きます。

三菱鉱業創業以来約五十年に近い間、村と密接な不離不可分の関係に在り昔は岩崎財閥独占事業であり、利益の追求も飽所なき経営方針でしたが、戦後は様想を一変し十万人に近い株主にて資本構成を見られ鉱員各位の株主も多数居り我等と同様村に生れ村に育った方々も多数であります。

昔と違い経営者と事業主とは分離されて居ります現状では営利目的から脱却し事業本位の永続性が主眼となり従業員の生活が第一主義になって居ります。

炭坑住民も最近の転任者を除けば村と共に数十年来歩み来た村民が大多数です。

其の村民が昔の岩崎家、利純の被害に依る旧来の村民に対する償いを現在継続されている様に見受けられます。

彼も我も一様に村民であり類組でありますれば御互いに納得ずくの話合いによる総べての解決方法を考え共に共存共栄の途を計り手を取り合って住み良い明るい郷土を造り御互いの幸福を守り引いては子孫の繁栄の基盤を造りつゝ再建日本の建設に寄与されん事を皆様と共に進みましょう。

年頭に臨み一言希望を併せ、御挨拶申し述べます。

方城村の将来に題す

助役 高津久雄

一本の松や杉が、用材になる為には少くとも三、四十年の年月を要する。方城村財政の或は村経済の中核は何人と云うにも炭坑に負う所が大きい。

然るに地下三千尺掘れば出て来る黒ダイヤの地下資源にも採掘の限度がある。或る者は三十年と云い或る者は四十年とも云う、それは兎も角として、ボタ山か、炭坑景気の往時の殷盛を物語る遺物となる日は、遅かれ、早かれ、必ず来る、それは火を見るより明であると断して差支あるまい。此処に、誰もが、斉しく自分自身の問題として、方城村の将来を考えねばならぬ必要があるのではあるまいか?

方城村の背後にそびへたつ広大なる福智連山は、森林の大資源地であることに於て、十目の観る所、十指の指さす所、異存のない所である。林道の開発と殖林の強行こそは、村民の重大なる関心事であってよいと思う。草原の現状から鬱蒼たる緑化地帯への努力は方城村百年の礎石そして、今日只今から真剣に乗り出すべき事案ではあるまいか?

炭坑景気は一体に、人をなまけものにすると云う巷間の常識である田園将に荒れなんとする嘆きを諸所に聞く、大分県津久見駅附近に於て見るあの山山の急坂が見事に開墾され密柑の栽培がよく行はれているあの努力をまねたいものである。

方城村には畑としての開墾可能地果樹園としての広大なる利用地が余りにも無関心に放置されて居りはしないか? 汗の生活、努力の生活が嫌はれる所には断じて、真の発展は望めない。一攫千金の炭坑依存の惰風から脱却して大地にしっかりと根を下した生活を讃美したいものである。

私は堅木山一帯の果樹園化を夢見ている。果物の消費量は生活文化の向上に正比例すると云はれているが、アメリカ人一人の一年の果物の消費量は九〇キログラムと云はれている。それに対比して、日本人の消費量は、僅かに其の一割程度であるそうだ。日本人の果物消費量も年と共に増加して行くであろう。それと共に果樹の栽培経営事業もやがては有望視されて来る時代が必ず来ると考へられる。

将来の方城名産としての栗、梨、柿、ブドウ、林檎等々の産出も努力次第では敢へて不可能の事ではないと言いたい。

広谷、長浦には牧場として好適の個所がある。古老の言によれば、昔時は方城牛の名柄を以て市価を高からしめる名牛が、多く産出されていたものであるとか?

それに引代へて現在では鳥取、大分、熊本方面から、牛に子牛の導入を計って、有畜農家の育成に当っていると云う始末である。此の事実を語れば之に答えて、その当時は熱心家が多かったと、事も無げに言う。名牛産出の歴史を有し且つ好適の牧場を有する方城に於て只一つ条件を欠ぐものは、此の事業に対する熱心家が居らないことになった一事だけである。和牛の牧畜可なり、乳牛の飼育又可なりである。殊に牛乳の消費量は年に増加の一途を辿っている此処にも熱心なる経営者の実現が待望されている。

村内各処に約七十個所の灌漑用貯水池を有する方城村としては、養魚との関連に於て、此の貯水池の利用も当然考へらるべき事業であってよいと思う。

昨年添田町に於ては彦山川に鮎の稚魚五万尾を放魚したと聞いている。下流地帯に於ける鉱毒の為、流石に有名であった彦山川の鮎もスッカリ種を絶ち川遊びに興味を持つ連中をして失望させている。此の放魚之を補う意図からして考え出されたものらしいが、鮎に未練を持つ地元の人々の気持は判るとしても、秋になれば海をさして降って行く一年限りの鮎の放魚は毎年繰返しても無駄が多かろう。

それよりも鯉の稚魚の放魚こそ観光地の施設として又養魚として数段有利のものではあるまいか? 鯉のあらいが上野の映仙閣や彦山の宿々に於ける特異の珍味として賞美の舌鼓に遊客を満足させていることも考えてよいことである。

地の利と伝統を有する方城養鯉の規模の拡大に依る事業化も見逃してはならぬ将来性ある事業の一つであると思う。

方城村の将来を前提として、現状を検討して行けば敢へて炭坑依存を条件に考えずとも幾多の繁栄の途はあると思はれる。農業方法の機械化に伴う労働能率の向上、農業知識と技術の向上に伴う農業の高度化等に、求むれば途は近きにありて次ぎ〳〵と前進すべき道標の示唆を受けるものが多くうまれて来る。私は、二十九年の年頭に際し吾が郷土、方城村三十年后の繁栄を想うこと頻りである。

本村教委の当面する課題

委育長 荒木良和

「国家興隆の根源は教育にあり」此の信念に燃えて発足した地方教育委員会の在り方については教育の民主化教育行政の地方分権化教育の自主性確保の三原則を基盤として運営さるべきであるが本村教育委員会の一ケ年の歩みを顧て忸じ不肖其の職責を全うし悔いないが為されたであろうか実に慚愧にたえない次第であります。

幸に関係各位の御支援と御鞭韃によって未曽有の水害病虫害の暴威による稲作の惨害等最悪の年であったにも不拘大禍なく歩ませて頂き昭和二十九年の新春を迎へるに際し本村教育の当面する課題を申上げ尚一層の御鞭韃と御支援をお願申上げます。

終戦後復員、引揚等による急激な人口の増加は全国的な現象でありますが本村の場合住民登録によって調査した結果は次表の如く実に驚くべきものであります。

昭和二九年	入学児童数	四八七人
〃 三〇年	〃	六〇七〃
〃 三一年	〃	七六七〃
〃 三二年	〃	六六五〃
〃 三三年	〃	六〇三〃
〃 三四年	〃	五一七〃

となって居り、学校教育法施行規則の十八条では一学級五〇人以下を標準とするとあり内規によっても小学校六〇人中学校五八人が限度とされている点から考えますと(昭和三〇年以後は暫く置くとしても)本年四月の新入学児童生徒の教室を如何にするかが大きな問題であります。

さなきだに災害の跡始末に要する経費等地方財政逼迫の折柄経費の方面にも大きな悩みが考えられます。

更にこれをもっと具体的に申上ますならば伊方小学校の場合二十九年度に特鉱による復旧は見込まれてをるもの、二十八年度の三三学級から一躍三十七学級に五学級の教室が必要であり、中学校二〇学級から二二学級に二教室が必要となり、これに伴う机、腰掛、其他教材教具等の緊急整備を要する課題が目前に迫て居るのであります本村教育将来の為にも次代を背負って立つ子供の為にも本村の皆様此の大きな課題解決の為に小我を捨て大乗的見地から絶大な御支援と御協力を切にお願い致します。

附記本件解決の具体案は教育委員会を始め関係筋に於て着々進行中であることを申添えます。

年頭雑感

方城村教育委員会
委員長 中山英雄

教育委員会も漸く二年生になる。と書いても一六、〇〇〇人の村民の中、幾人の人が教育委員会を知っているだろうか。教育委員会というのは、あれは何か?と大多数の村民は知らない。教育という字がついているから、何か学校のことでもするのだろう。役場の学務係の様なもんだろう。この程度にしか知られていないのだろうと私は思う。

今更此処で私が喋々と紹介してみたところで、紙面が無駄になるだけである。知っている人は私以上に知っているし、知らない人は読まないから。若し興味のある方は「教育委員会法」というものを研究していたゞくし、余り興味のない方達は、子供が通う学校を良くして呉れるところ、という位に考えておいて呉れれば、大して見当違いでもないと思う。偉そうな事を云ってみたが、私自身「教育委員会法」とかいうものを一字一句研究していない。

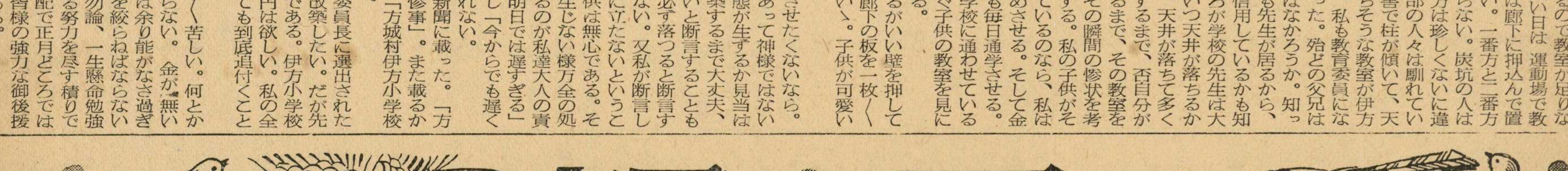
ざっと目を通した程度、よりはましな位である。これでは委員長として甚だ不勉強という他なく、皆さんからさん〴〵叱られねばならない。兎に角昭和二十九年になってしまった。四月には可愛いゝ一年生がたくさん出来る。あんまりたくさん過ぎるので教室が足りない。天気の良い日は 運動場で教え、雨が降れば廊下に押込んで置かねばならない。一番方と二番方を作らねばならない。炭坑の人は一番方、二番方は珍しくないに違いないが、村部の人々は馴れていない。又、砿害で柱が傾いて、天井が今にも落ちそうな教室が伊方小学校にある。私も教育委員になって始めて知った。殆どの父兄は知らないのではなかろうか。知っている父兄でも先生が居るから、と先生を絶対信用しているかも知れない。ところが学校の先生は大工ではない。いつ天井が落ちるか知る訳がない。天井が落ちて多くの子供が怪我するまで、否自分が粱の下敷になるまで、その教室を使うだろう。その瞬間の惨状を考えると悪寒がする。私の子供がその教室に通っているのなら、私は直ぐ学校をやめさせる。そして金田小学校にでも毎日通学させる。子供を伊方小学校に通わせている父兄は、今直ぐ子供の教室を見に行くべきである。柱を叩いてみるがいい壁を押して見るがいゝ、廊下の板を一枚〳〵踏んで廻るがいゝ。子供が可愛いゝなら。

子供に怪我をさせたくないなら。私達は人間であって神様ではないいつ不測の事態が生ずるか見当はつかない。改築するまで大丈夫、天井は落ちないと断言することも出来ないし、必ず落つると断言することも出来ない。又私が断言したところで役に立たないということである。子供は無心である。そういう不幸が生じない様万全の処置をとってやるのが私達大人の責任である。「明日では遅すぎる」かも知れないし「今からでも遅くない」かも知れない。

鳥居が落ちて新聞に載った。「方城村春祭の大惨事」。また載るかも知れない。「方城村伊方小学校の大惨事」と。

不肖私は教育委員長に選出された今直ぐにでも改築したい。だが先立つものが金である。伊方小学校だけに五千万円は欲しい。私の全財産を寄附しても到底追付くことではない。

村財政もなか〳〵苦しい。何とかしなければならない。金が無いからしないでは余り能がなさ過ぎる。皆で智恵を絞らねばならない教育委員会は勿論、一生懸命勉強して、あらゆる努力を尽す積りである。私は心配で正月どころではない。村民の皆様の強力な御後援を願うや切である。



1954年1月1日

議長 倉石文夫
副議長 稲富次郎
議員 森静
木戸清太郎
坂井哲夫
持丸哲治
稲富春吉
仲村利夫
長尾豊作
仲村友市
白石治郎作
久富民生
木村清三郎
岡本政市
松本兼夫
立花勘治
中村平八郎
宮崎角治
村田基
原田秀次郎
永野久雄
松田直
中山政教
石橋房吉
村長 松井肝太
助役 高津久雄
収入役 太田正禧
教育長 荒木良和
教育委員長 中山英雄
役場吏員一同

皇居奉仕に参加して（続）

高津・永末

皇女様方のお雛祭りに二度もお招きを受けて楽しませて頂いた。桜の花の頃、皇居内の御苑を皇后様と一緒に散歩した事もある。

こう云う様々な集いによって、まるで肖像画が此処に一筆、あすこに一筆と描かれてゆく様に私も少しずつ陛下の事がわかる様になった。陛下は質素で親切で思いやりがあり、科学に御関心深く、正確な事を熱愛されると云う事は、かねがね陛下を知っている人達から聴いていたのであるが、これは私にとって、もはや伝聞ではなく私自身の眼で見たのである。

一年程前陛下は、私に御文庫内の書斎を見せて下さったが、それは洗練された教養ある人の書籍に囲まれた上品な室であった。私の注意をまず最初に惹いたものは、西洋の家庭の書斎でよく見受けられたのと同じ様な三つの胸像、リンカーン、ダーウイン、ナポレオンであった。それは一つだにアメリカ人の眼を喜ばすために加えられたのではない。何故ならば、この胸像を見た時に、なる程とうなずけた事がある。日本に来て間もなく起った小さい出来事、それは学習院の私の教え子達に少年時代のリンカーンの絵を見せて、誰であるかを質問した時、直ぐに答えられたのは皇太子だけであった。リンカーンは東宮様には家庭の友人なのである。陛下が側近の人達のため思いやられ、気を配られることについては侍従や女官から色々話を聞かされる。一つ一つは小さい出来事かも知れないけれども、それを一緒にして見ると陛下は他人が必要とするものを何時でも知っていられると云う意味深い事実となるのである。

私自身の経験した事で、いつも思い出すのは一九四七年の夏、私が軽井沢に滞在中、浅間山が噴火した時、陛下は東北御巡幸中であったが、私の安否を確かめるために侍従に態々電話で問い合せる様計られた事である。

もう一つ私が思い出すのは、ある十二月の冷えびえとする晩、お招きを受けて皇居は行っていたが、皇太子が御自分には室が暖くなり過ぎたので電気ストーヴを消された。すると陛下は私には寒すぎるといけないからと云うお心づかいから直ぐにかがまれて、又ストーヴをつけられた事である。

陛下が御自分の科学的な興味を喜んで他の者と語り合われること、そして非常な浅薄な質問に対しても丁寧に答えられることについてもいろ〳〵話がある。

私が思い出すのは、ある三月の日の葉山での事である。昼食の後両陛下・皇太子・二人の女官と私とで相模湾の彼方、伊豆の山々の上に雪を頂いた富士が青空に高く聳えている景色の見える日当りのよい二階の部屋にいた。そこえ魚の入った鉢が運ばれて来たが、その中には陛下と皇太子がその朝獲られた三匹の鰻の様な生物が泳いでいた。ところがその生物がもうすっかり成長してしまっているのであろうか。或は又もっと長く太るだろうかと云う疑問が起きた。みんなが陛下の方を振り向いた。陛下はすぐさま参考書を取り寄せられ、その魚がセンチメートルでどれだけの長さに迄なるかを正確に示された。それは時と所とを問はず何時でも何処ででも見られる一場の光景であった。私は同じ興味に熱中し、解らないことは父親に答を聞かうとしている幸福な家庭を世界中、至る所で見るのと同じ様に此処でも見せられた様な気がした。

皇太子は陛下よりも、もっと新しく自由で広い世界へと成長されているので、皇太子自身の人格のまゝに、その感化を国民に及ぼす事が出来ると思うが、その皇太子の人格を育成するための、あらゆる感化のうちで一番安全で有益なのは御両親の感化である。父君陛下の高潔と常に自ら進んで国民の幸福のため心を配られる御性格、母君陛下の静かな叡智とほがらかな人を惹きつけないではおかない御気質とがそれなどである。

又宮廷に奉仕する事、二十八年の宮内官生活を語る佐野恵作氏の談話の中の二三を拾って見よう。東北御巡幸の際、行幸先のある会社で共産党と自ら名乗る一人の男がつかつかと御前に進み出て「陛下握手をお願いします」と右手をさしのべた。周囲の者はハッと思って、さて陛下はどうなさるであろうかとかたずをのんだ。暫らくして陛下は「日本式にやりましょう」と答えて、軽く会釈して通過せられた。

又その二「どうも私の食べているパンは普通のより白い様だ、大膳できいて見よ」と大奥からお尋ねがあった。成る程その頃アメリカから入ったメリケン粉を使っていた。「私のパンだけ白いのは困る国民の配給のと同じにして呉れ」とおっしゃってお聞き入れにならない。そしてその日から一般市民と同じ配給の粉をつかって黒いパンに変えられたという。

陛下は決して国民からえらい陛下だとか、よく思はれようとか、あるいは思はれようとか、そんな作為は毛頭ない。唯陛下としては「今食べているこのパンは時を同じうして、国民と同じものを食べているのだ」と云う本心的な心安さがほしいのである。

又その三

宮中賢所の一角で、ある朝陛下は御所内の勤労奉仕者をおねぎらいのため、こゝにお立ち寄りになった。雨が降っている。陛下はゴム長に洋傘をお持ちになっていたが奉仕者は誰も雨具を持っていない「どうしたのだろう、洋傘もささないで」と傍らの侍従をふりかへっておつぶやきになった。雨はだんだん強くなる。陛下は雨にぬれる奉仕者を思いやって、いつもより御下問を早く切りあげてお引き上げになった。そして道々「どうして雨具をつけさせなかったのか役所にも洋傘が用意してある筈じやないか」とおたしなめになったこう云う時の陛下はいつもの陛下よりも強いのである。

又その四

神戸婦人同情会の城ノブ女史と云うよりも、むしろ「一寸待て、袖は愛なり」と須磨の鉄道ふみ切りに立看板を出して自殺者を未然にふせいだ老女史だと云った方がわかりが早いかも知れない。その城女史、七十才の老躯をおして上京した。社会事業大会に参加するためである。その日吹上御苑内、花蔭亭の一角に耳のきこえないこの老婆と杖の代りにつき添った一女史とがポッカリ浮いた点影は黒絵の様に鮮かであった。

そこえ両陛下がおたち止りになられ、陛下から「社会事業のため今後ともつくして下さい」と云はれ更に皇后さまから「お年寄りのことであるから、どうか体を大切にして」とねんごろに云はれた時老婆も付添も顔をあげ得ず、ただ涙だけが芝生の上におちたのである。

以上ヴァイニング夫人、侍野宮内官のお話に依り大体陛下に関する輪かくだけ位はお汲み取り願えたことと思います。

宮中に参内された人はお解りと思いますが、外から眺めると皇居はもっと奥深くお濠りの外の外界からずっと遠くにある様に感じられますが、それが以外に巷の物音に近い、町は耳にも目にも思いがけなく近く、雲の上の如く信じられていたものが、夜等はきっと電車の音も陛下のお耳に入ることゝ思います。イデオロギーの相違から米よこせのデモ隊が皇居に押しかけたと云う様な新聞記事を大分前に見た様な気がするが、その時の騒ぎはその侭皇居内の陛下にもお伝はりではなかったろうか、又メーデー事件においても然り、しかしこんな騒ぎを起した人々も陛下の本当の御心の奈辺にあるかを知る事が出来たならば、きっと自分の行動に省みるところがある事を思います。

更に今一つ附け加え度い事は今日の政治家である。国会に於ける乱脈・政権の泥試合等、あれで選良として国民の為に働いている積りなのだろうか、唯今の政治家諸公が陛下の心を心として本当に国政の面に大御心の程を反映せしめるならば、日本最高の立法府に於いてあの様な乱痴気騒でも恐らく起らないで済むのではなかろうか。

人の一生と戸籍

戸籍係

戸籍には私たちが生れてから死ぬまでの身分関係を記録します。戸籍を見れば私たちの身分関係がみんな分ります。

戸籍の保存

戸籍の原本は本籍地の市町村で保管し、副本は法務局地方法務局又はその支局に保管しているので、災害があっても大丈夫。手数料を払えば戸籍を見せてもらえ、また謄本や抄本をとることができる。

誕生

出生届は医師又は助産婦の出生証明書を添えて十四日以内に、名前をつけるときは「かな」当用漢字又は人名用漢字の外は使えないから、迷信とか姓名判断などで難かしい漢字を使っても届出が受けつけられない。

結婚

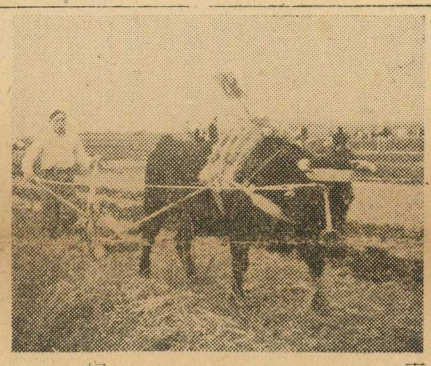
届出は結婚式と同時にしたいものだ。証人連署の上役場に届けると夫婦の新しい戸籍ができる。

死亡

届出は医師の診断書を添えて七日以内に、死亡者の遺産は配偶者・子供等に分配される。

昭和二十八年度牛馬耕競犁会 華々しく開催さる

十一月十日午前十時開会式、審査長より競犁に先だち諸注意あり定刻十時三十分犁始め、九〇分乃至一二〇分の長時間人・牛馬一体となって日頃の腕前を示すわ此の時とばかり、三五名の選手が各手で激戦を展開、其の結果成績左の通り



壮年の部

一等　秋野吉広

二等　永末敏広、原富久

三等　田丸助三郎、永末克己

青年の部

一等　香月国作

二等　太田五万吉、石橋伝、石橋徳行

三等　永末武好、竹下一弘、芳野保、永末次雄、永末建、高津慶重

婦人の部

一等　石橋マサキ

二等　石橋マスミ

中原公民分館落成によせて

末松栄

文化方城村の名にふさわしく、去る十一月二十四日我が中原分館落成を殿として、各部落の分館建設も一応終ったかの感が致します。さてこの分館活動にも色々ありましようが、私の考えでは先づ巡回農業講座の開設こそ最大の急務と思います。今から三十余年前農事小組合が設立されました当時、年に一回か二回名小組合総会が開催され、県郡から講師が臨席され有益な講話がありました。爾来方城村も長足の進歩をして農業会館も設立され、時折専門家の講話もありますが、講話される人はほゞ決って居る様であります。しかし是でよいのでしようか。現在農村には幾多の問題が山積して居ります即ち耕種改善、新農薬に対する知識、肥料の合理的施用法、園芸果樹の栽培、畜産に、造林に、間接的には国内食糧と世界の食糧問題、青少年不良化防止、医療衛生等々幾多の研究すべき問題が残されて居ります。是等の諸問題を積極的に指導するには各分館に農業講座を開き農業会館等の講話に出席出来ない数多くの人の水準を高め細部組織の強化を計り実質的に豊かな文化方城村建設に寄与されん事を切に念願致します。

一・二月農事メモ

麦　○中耕＝土壌が固まり麦の根の発育を害するので、必要に応じて除草を兼ね中耕を行う。

○土入れ＝分ケツ本数の増加につれて浅く土入を行う。

○追肥＝分ケツ肥として、一月下―二月上旬に反当窒素四〇〇―六〇〇匁（尿素九〇〇―一貫三五〇匁、硫安二―三貫）と加里五〇〇匁（塩化加里二貫）を施用する。二月末の追肥は無効分ケツを増加するので早目に施用する。

菜種　○中耕＝麦と同様に行う

○追肥＝二月の中頃分ケツ肥として窒素四〇〇匁内外（尿素九〇〇匁・硫安二貫）を施用する。

豆類　○追肥＝豆類の追肥や中耕等は一般に行はれていないが、これがため豆類の発育悪く、病害の発生が多い。肥料中窒素は根瘤菌の作用によって供給されるので、肥料として多く施す必要は少いが、燐酸・加里は充分施用（中耕の前）しなければならない。

葉菜類　○白菜＝寒による腐敗を防ぐため、白菜の下葉を以って結球部を覆い稲ワラ等で結束し其の上に薄くワラをひろげる。

○ホーレン草＝春とり用として洋種を播種する。酸性土壌には石灰を充分打込むこと。

育苗　果菜類の苗の良否が収量に及ぼす影響は非常に大きいので育苗に当っては特に次の点に留意する。

一、播種は二寸の条まきとし間引を早目に行い二寸×二寸とし、移植に当っては充分株間を与え、最後の移植は少くとも六寸×五寸の株間を確保する。

一、温度は発芽まで三十度位とし発芽後は日中二十五度内外、夜間は十五度から十九度位とし高温育苗による徒長を防ぐ。

一、換気苗は床内の濕度が高くなると徒長し易いので、特に踏込初期は水蒸気が床内に充満し徒長の原因となるので換気に注意する。

果樹　剪定・植換・植付は本月行う。

（農業改良普及員）

第四回全国児童図書コンクール大会

伊方小学校　吉本実

学習研究社主催・文部省後援のもとに開かれたコンクール大会に全国参加校二・三〇〇校、総出品点数約五・〇〇〇点中、伊方校出品一二点、内入賞一〇点で日常の努力の賜であり、県外他校より本校児童の図画作品の送付依頼を受けている状態で、今後益々本校の図画教育の発展に資したいと思っています

入賞者左の通り

○学校賞　一等賞　伊方小学校

一年　杉原瑛治

二年　福丸勝則

三年　西村次子

四年　松本正

五年　古川卓次

六年　梶川哲男

○個人賞

一等賞　五年　大西祥二郎

三等賞　六年　香月優子

三等賞　三年　岸本剣典

入選　一年　津波勝一

以上

紅葉の耶馬より別府え

香月澄子

バス今や雑木紅葉の表耶馬
しばらくわ耶馬の紅葉に去りがたく
もぎくるゝ柚子まに合すバス発車
耶馬とえて今宵別府の菊の宿

婦人会詣でし宇佐は神の留守
湯の別府紅葉の耶馬と旅重ね

新民生委員決定

民生委員法の改正に伴い去る十月二十二日民生委員推薦委員会を開催詮衡の結果、各地区民生委員を左の通り決定、十二月一日より就任することになった。

畑・新門地区　高津順

中原・野添・大黒坑・方正坑地区　石谷マサヨ

古門全域、吉田坑地区　木戸清太郎

犬星・前村・矢久保地区　真木ハル

後谷・八幡町・山ノ手・倉石坑地区　仁保観道

浄万寺・春田・久六・弁城坑地区　中山与七

上弁城・新町地区　永末治豊

迫・宝珠・藤高坑・吉田煉瓦工場地区　香月美佐男

方城炭坑全域　岩猿勉

山崎宝作

渡辺翠

今仁文子

十二月中新刊書

著者名	書名
梅根悟	毎日学生事典
菊地倔	二九年朝日年鑑
吉川英治	宮本武蔵②③
古川晴男	蟻の結婚
理論編集部	はたらくものの国
小林一三	私の見たアメリカ、ヨーロッパ
松島慶三	海軍
コールド・ウエル サム・アメリカン・ピープル	
テレスカ・トレース	女の兵舎
日本放送協会	番茶クラブ
矢野目源一	幻庵清談
戸塚文子	サラリー・ガール
小島順編	花の命は短くて
丹羽文雄	理想の良人
小島政二郎	わが恋は水に燃え立つ
早乙女勝元	下町の故郷
中野実	東京ルムバ
水木洋子 龍野敏	ママの日記
三好十郎、美しい人①②	
捕物作家クラブ編	捕物絵図
城昌幸	いろは謎文
石川達三	石川達三集
富田常雄	富田常雄集
舟橋聖一	舟橋聖一集
村上元三	村上元三集
大仏次郎	大仏次郎集
吉屋信子	吉屋信子集
丹羽文雄	丹羽文雄集
獅子文六	獅子文六集
井上友一郎	井上友一郎集
田村泰次郎	田村泰次郎集
坂井三郎	空戦記録（上・下）
ハーマン・ウオーク	ケイン号の叛乱
中西伊之助	続々赤い絨タン
乾信一郎	阿呆宮一千一夜
ロード・フ	太平洋戦争前史
R・グレンフエル	主力艦隊シンガポール へ
ガルトン・ルルー	黄色の部屋
フランセスNハート	ベラミ裁判
ファーブル	昆虫記全六巻
若月俊一外五名	村の図書室全五巻
山本保夫	鯉と鮒の飼い方
川尻稔	淡水魚の仕方
谷本保夫	鼈の飼い方
榊原清 佐藤泰正	読書の心理
田辺寿利	社会学大系　家族
尾崎士郎	早稲田大学
三好十郎	美しい人二巻
金子一郎訳	魯迅雜感選集
鬼頭有一	漢字の科学

十二月ブツクルーム

利用される図書と册数	
総記…ものしり事典其他	7册
哲学…第二の性　〃	6册
歴史…物語日本史　〃	11册
社会科学…風俗の歴史　〃	10册
自然科学…メタセコイア　〃	2册
工学…電検ポケットブック　〃	4册
産業…養鶏講義　〃	12册
芸術…日本美術全集　〃	28册
文学…石坂洋次郎集　〃	145册
計	225册

閲覧者数	
官公吏	58人
鑛業	22人
農業	9人
商業	4人
工業	25人
学生	37人
児童	8人
其他職	12人
無の	4人
計	179人